

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年2月1日 149号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

パクー人工孵化第四季



2. 母魚を念入りに点検する中田所長。



3. 親魚に人工授精の準備をする。



1. パクーの養殖池より人工授精に適した親魚を選び出す中田所長（右）とマグノ教授



6. 精子をかけた後、受精卵を優しくかき混ぜる。



5. 母魚から成熟卵を採取する。



4. 親魚にホルモンを注射する。



9. 仔魚から稚魚へと成長したパクーを養殖池に移す。



8. 受精卵を孵化器に入れる。



7. 受精卵を点検するマグノ教授。

パクー大量人工孵化！

三年前にレダ基地で初めてパクーの人工孵化に成功して以来、四回目の繁殖期となりました。パラグアイ川の産資源の回復と地場産業の育成に向け、国立アスンシオン大学のマグノ教授の指導のもと、パクーの増殖にいつそう熱の入るレダ基地スタッフが、日夜休む間もなく人工孵化に取り組んでいます。

すでにレダ産のパクーは、チャコ地方を中心に各地のレストランやホテルなどに登場して、その健康的な美味しさが高い評価を得ています。またパラグアイ川を航行する国際航路の船舶もレダ沖を通過するときにパクーを手入することを楽しみにしています。

昨年、パクーの搬送用の冷凍車がレダ基地に導入されましたが、今後はより広範な販路を拓くために、フェリータイプの輸送船が求められます。国家からも、地元からも期待されているパクー繁殖プロジェクトです。今後も地道に成果を積み重ね、人と自然との福地建設を目指す努力を、どうぞご支援ください。

二〇一六年初の定例集会と新年会で決意！

一月十七日、午前十時半より大山街道ふるさと館において、一般社団法人南北米福地開発協会二〇一六年初の定例集会と新年会が催されました。

第一部、本年初の定例集会で

は、初めに高辻章子さんによる祝歌が会場の雰囲気を高揚させました。メインスピーカーは李成萬氏。特に地球環境問題に触れました。「昨年十一月三十日から十二月十日までパリで開催された気候変動枠組条約第二十一回締約国会議（COP21）において、参加国間の合意形成が困難を極めました。気候変動に代表される地球規模の問題は休むことなく深刻化しています。今や米中の首脳も重い腰を上げるようになりまし。しかし重要なのは、真に創造主の心情と視点に立つ解決策です。これを提示したのが文鮮明先生で、その遺業を継承した文夫人は、鮮鶴平和賞を創設し、昨年六月、キリバスのアノテ・トン大統領（気候変動危機の最前線で人類の未来と平和のために努力）とインドのモダドゥグ・ヴィヤイ・グプタ博士革新的な魚の養殖技術の二人が第一回の受賞者になりました。また人と万物の福地建設に責任を持つて実行する南北米福地開発協会の活動を熱い心で支援してくださっています。皆様、年齢は十歳引いて頑張りましょう！」と激励されました。



語る李成萬氏

その後は、お弁当を食べながら歓談の時間。井口靖雄氏が、先輩たちの貴重な歩みを後孫の教材とするために、各人が自叙伝を書くことを奨めました。



歌う高辻さん



合唱する青年たち（右端が島田青年部長）

その後、お弁当を食べながら歓談の時間。井口靖雄氏が、先輩たちの貴重な歩みを後孫の教材とするために、各人が自叙伝を書くことを奨めました。



報告する小橋氏



歌う竹之内さん

引き続き、午後一時から第二部、新年会となりました。まず竹之内美紀さんが「建国の歌」など二曲を独唱、青年たちも練習してきた二曲を合唱しました。島田賢二青年部長は今年の方針として「レダプロジェクトの後継者を探し、立てる」ことを発表し、その候補者を探すことに「皆様の協力を！」と呼びかけました。次いで四日前に帰国したばかりの小橋恵三氏がレダでの活動を報告しました。「レダは天然の食材が豊富で、研究や開発は楽しくできます。しかしレダは陸の孤島です。開発した食品を運送する冷凍車を積載できる、フェリー型の船舶が切実に求められています」と訴えました。



司会の柴沼理事



戸石事務局長

今年の新年会で特筆すべきは、戸石文夫事務局長による、「レダプロジェクト・福地建設に向けて」と題してのマスタープラン紹介です。アグロフォレストリーやエコツーリズムを始めとする総合ビジョンを、具体的な写真や想像図を駆使して分かりやすく視覚化したものです。司会の柴沼邦彦理事によれば、その資料は百ページ以上上るとのこと。このプレゼンは、「二〇二〇年までの目標として、人間と自然環境の共存する国際村の実現を目指し、多家庭が移住できる環境を準備して行きましょう！」と結ばれました。



新年会



当会の中田理事長



高津NPO理事長

新年会の締めくくりは、当会の中田欣宏理事長による今年度方針の発表です。「昨年はレダ基地を囲む5 Kmの堤防を造成でき、洪水被害の心配がなくなりました。ご支援に感謝いたします。今年度のテーマは、「パンタナール開発プロジェクトの意義について、多くの人々に理解を広めること」そのためにタブレット端末用のプレゼン資料を作成するなどし、一般の個人や団体に分かりやすく説明できるようにします。目標としては、「現地に生活と経済の基盤を造るためのアクションを具体的に起こす」ための事業法人づくりを目指します。また「プロジェクトの未来のため後継者を発掘すること、社会の中から心ある協力者を広く求め、支援態勢を強化すること、人的支援として、技術を持つ人をレダに送ること」などを力強く語りました。

こうして本年の活動に向けて熱意と覚悟が高まる中、活動の中核となる総支部長たちが紹介されました。最後に吉村敏明理事の音頭取りで万歳三唱をし、全員で記念撮影をして閉会しました。（撮影〓石川、文〓小田）



★ハチドリ (ピカフロール)



ある朝、窓の下で地面にうずくまっていた一羽のハチドリを見つけた。窓ガラスに高速で衝突したのであろう。ここがコウモリと異なる。腰をかがめ、ハチドリに手を差し伸べると、よちよちと私の掌に

接近するとサッと飛んで逃げるので、撮影にはカメラを遠隔操作することが多い。ネット上にも多くの美しい写真が公開されている。ハチドリも休憩するときは、木の小枝などに止まる。背に風を受けると、羽毛がもこもこと逆立って、別種の鳥のように見える。ハチドリは、スニッチのように飛ぶ。(スニッチとは、映画ハリポッターの中で、クイディッチという競技に使われる白い球) 飛ぶ時は、目で追うのがやっとの速さで、変化球のようにあちこちに方向転換しながら樹木などの障害物の間を縫って飛ぶ。空中停止ができるほか、飛翔中に鋭角の進路変更を見せることもある。木の葉にハチドリの羽が触れると、その細かく震える音でハチドリが近くにいることが分る。



ハチドリは、握り寿司のように小さく、可愛らしい小鳥である。南北アメリカの熱帯から亜熱帯にかけて、広く分布し、花の咲く地域なら、ほとんどどこでも見られる。ハチドリは、良く知られるように、花の蜜を吸う時、蝶や蜂のように花に止まらず、空中でホバリングする。しかし人が

レダを体験した青年は、今！ (第4回)

世界一の母親になることが私の夢です!



矢嶋淳華さん 第15回国際協力青年奉仕隊員 早稲田大学 文化構想学部3年生 (パイアネグラの医師とともに)

Q. 青年奉仕隊に参加した理由は何ですか?

A. 学校での奉仕活動に魅力を感じました。子供好きで世話好きなことと、写真で見た奉仕活動をする青年たちの姿が輝いていて、行ってみたいと思いました。

Q. 行ってみて何を感じましたか?

A. 海外に出ることで、「こんなにも発見が多いんだな!」と驚きました。テレビで見たことがあっても、本物を見ることでより強く実感させられたり、逆にイメージと違っていただけなどもありました。習慣の違いに驚き、格差の深刻さを突き付けられました。

また、自分自身の心の中に「挑戦することを恐れていた自分」を発見しました。日本ではメンツがあったり、傷つくことを恐れて、一步踏み出せなかった自分が、海外に出て言葉も通じない環境におかれることでゼロになりました。しかし、そこから大きく成長していけることを知ったのです。

Q. 嬉しかった思い出はありますか?

A. 大きなパクを釣ったことです。それまで釣り竿を触ったこともなかった私は、「パクなんか釣れるわけない」と思っていました。ところが、私が持った竿に大きなパクが食いついたのです。みんなに助けられながら無我夢中で釣り上げました。

その時は興奮だけでしたが、あとで感じたことは「信じること」の大切さです。今まで私は、目に見えないものを信じたり、期待することがあまりできないタイプでした。しかし、釣りの体験を通して、もっと信じていく勇氣が必要だと思いました。これからの人生でも「あそこにはパクがいるかもしれない!」と信じ、わくわくしながらいろんなことに挑戦していきたいです。

Q. 青年奉仕隊の経験は、その後の人生にどんな影響を与えましたか?

A. 来年休学して、留学することを決意しました。何もない所に身をおき、自分を成長させたいと思います。まだ見えない何かを期待して、飛び込んでいけるのは今しかないと感じます。具体的には、母の母国である台湾に行って中国語を学びつつ、いろんな経験ができればと思っています。将来は、教育関係の仕事に携わり、世界一の母親になることが私の夢です。



上って来た。餌付けしない限り、野鳥が人の手に自ら入ることはない。目が見えないようだ。おそろく手の暖かさを感じて来たのだろう。このパンタナール地域も、冬の早朝は冷え込む。私は、飛べなくなった野鳥を見つけると、暗い箱の中に入れてやることにしている。半日ほどおとなしくしていれば、体が回復し、陽射しのある午後に放てば勢い良く飛んでゆくのが普通だ。私は飛べなくなったハチドリを箱に入れ、昼になってから取り出した。両眼は相変わらず細くなったままだが、

いく分元気になったのか、私の掌の上で、翼を拡げ、首をもたげて羽ばたこうとする。しかし、何故か飛び立たない。体力が足りないのだろうか。がんばれ、がんばれ、と声援を送るが、動きが弱々しい。と、ある瞬間パッと飛び立った。私の前で、直径5メートルほどの円を描きながら水平飛行し、1周だけして私のわき腹にセミのように止まった。そうだ、その調子だ、しつかり飛んで行け!

しばらく私はそのままの姿勢で、じつとこの小さな生き物を見守っていた。しかし、ハチドリは、ぽとりと地面に落ちてしまった。力尽きたのだろうか。もう完全にぐったりしている。その後1時間ほどして、この美しい小さな鳥は息を引き取った。(ハチドリ目 ハチドリ科 アオムネヒメエメラルドハチドリ スペイン語でピカフロール) (小田記)

各国の削減目標

国連気候変動枠組条約に提出された約束草案より抜粋



国名	削減目標	削減目標
中国	2030年までに GDP当たりのCO ₂ 排出を 60-65% 削減	2005年比
EU	2030年までに 40% 削減	1990年比
インド	2030年までに GDP当たりのCO ₂ 排出を 33-35% 削減	2005年比
日本	2030年までに 26% 削減 ※2005年比では25.4%削減	2013年比
ロシア	2030年までに 70-75% に抑制	1990年比
アメリカ	2025年までに 26-28% 削減	2005年比

全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト：
(<http://www.jccca.org/>) より

COP21合意の要旨

昨年十一月三十日より二週間にわたって、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）がパリで開催されました。史上初めて世界一九六ヶ国の国と地域のすべてが温室効果ガス削減を約束し、その最終合意では、世界の気温上昇を二度未満に抑えるための取り組みとして、パリ協定を採択しました。合意内容を確実に実行するためには、各国ともに真剣な努力が必要とされます。また、この協定の一部には法的拘束力があり、一部は自主的な行動目標となっていること、すでに最も危険な状態にさらされている地域住民の権利が損なわれている等の批判があります。

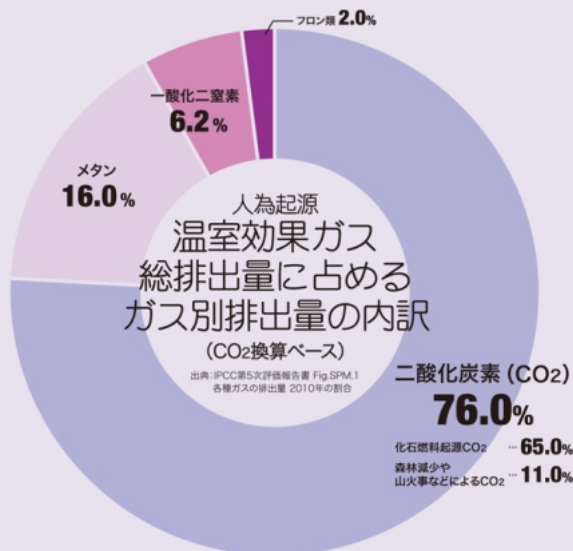
合意の要旨

● 温室効果ガス排出量が速やかにピークに達して減り始めるようにする。今世紀後半には温室効果ガスの排出源と吸収源の均衡を達成する。森林・土壌・海洋が自然に吸収できる量にまで、排出量を

二〇五〇～二一〇〇年の間に削減していく。
● 地球の気温上昇を二度Cより「かなり低く」抑え、一・五度C未満に抑えるための取り組みを推進する。
● 五年ごとに進展を点検する。
● 途上国の気候変動対策に先進国が二〇二〇年まで年間一〇〇〇億ドル支援する。二〇二〇年以降も資金援助を約束する。

私たちにできること

● 省エネに取り組む。冷房、暖房ともに、温度設定を見直し、適切に保つ。使わない電化製品は電源を切る。照明をLED化する。クールビズやウォームビズを取り入れる。等々。
● 低炭素な仕組み作りを応援する。環境に配慮した消費生活。リユース、リデュース、リサイクルを行う。カーボン・プライシングを意識する。気候変動や温暖化について学ぶ、伝える。等々。
● 森づくりに取り組む。緑を守る、緑を増やす、緑を育てる。個人で、家庭で、仲間と、地域で、学校で、会社で、社会で、等々。



同上：http://www.jccca.org/chart/chart01_03.html

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール：office@asd-nsa.com

ホームページ：<http://asd-nsa.com>

会員種別

◆ 会員一口1000円/月

◆ 特別会員一口1万円/月

◆ 法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

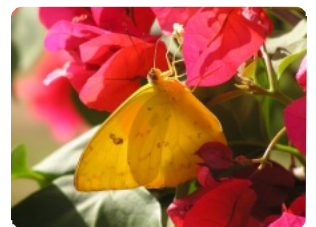
00290-5-113072

加入者名：シャ 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申し付けください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。